

⑥二級河川小本川・清水川河川激甚災害対策特別緊急事業

受賞機関 岩手県 沿岸広域振興局 土木部 岩泉土木センター

キーワード 県内最大規模、輪中堤、県の河川事業初の宅地嵩上げ、狭隘な施工ヤード、掘削土処理量の削減、整備効果発現

全建賞審査委員会の評価ポイント

県内最大規模の約26kmに及ぶ河川改修において、輪中堤や県の河川事業初となる宅地嵩上げの導入等、地域特性を踏まえた効率的かつ経済的な対策を組み合わせるとともに、プレキャスト工法や公募型土石採取事業等により約30万㎡の掘削土を有効活用し、令和6年台風5号により同規模の降雨があったが、浸水被害が発生しなかった点が評価された。

1. はじめに

小本川は、岩手県の北東部に位置し、北上高地の国境峠に源を発して太平洋に注ぐ流域面積731km²、流路延長65kmの二級河川である。

その流域は、本州で最も面積が広い町である岩泉町の約7割を占め、約90%が山林である。

平成28年8月、観測史上初めて東北地方の太平洋側に上陸した台風10号により、岩手県沿岸部には総降雨量251mmの記録的な大雨がもたらされた。この大雨により、小本川の流れる岩泉町内では、河川氾濫や土砂災害により、浸水面積は617ha、住家被害は1,810棟に達するなど、甚大な被害が発生した。

2. 事業の概要

岩手県では、再度災害の防止を図るため、総延長約50kmに及ぶ県内最大規模の河川改修を計画した。そのうち、小本川の下流24.1kmと支川である清水川2.0kmの区間に河川激甚災害対策特別緊急事業を導入し、河道掘削、築堤及び護岸整備による集中的な河川改修を実施した。

小本川の築堤部では、地域住民との対話を重ね、家屋の浸水は防止しつつ、耕地等の浸水は一定程度許容しながら、洪水を緩やかに流せるように、輪中堤の整備、霞堤の存置及び宅地の嵩上げと災害危険区域の指定による土地利用規制を組み合わせ、流域全体で効率的な治水対策を進めた。

沿川に家屋が連続して建ち並ぶ清水川では、河川内に仮設構台を設置して施工ヤードを確保し、さらにプレキャスト函渠による橋梁の架け替え等、厳しい現場条件を克服しながら事業を推進した。

大規模な河道掘削に伴い発生した大量の土砂は、公募により選定した土石採取者のプラントで砂や碎石に選別し、約30万㎡を製品化した。



輪中堤と災害危険区域

3. 事業の成果

平成28年の台風10号と同様に、太平洋側から岩手県に上陸した令和6年の台風5号は、被災時と同規模の総降雨量251mmの大雨をもたらした。しかし、治水対策の進捗により、小本川の氾濫による家屋等の浸水被害は発生せず、着実な整備効果が確認された。

4. おわりに

全国各地で、これまで経験したことがないような災害が発生している。本災害からの復旧・復興事業の成果を広く伝え、防災・減災対策の一層の推進に貢献することを期待し、ドキュメンタリー動画「いわいずみ9年のキセキ」を公開した。是非ご覧いただきたい。

本事業の実施に当たり、ご理解とご協力をいただいた地域の皆さま、さらに調査・設計・工事に携わった全ての関係者の皆さまに、深く感謝申し上げます。



ドキュメンタリー動画

賛助会員 ピーエス・コンストラクション(株)、(株)畑中組、(株)鴻池組、オリエンタル白石(株)、県北緑化(株)、ONOSHIN(株)、(株)佐賀組、北日本機械(株)、アジア航測(株)